

コアシンポジウム 4

「消化管腫瘍学の新展開 【消化管腫瘍に対する内視鏡治療を併用した集学的治療】」

主司会 引地 拓人（福島県立医科大学附属病院内視鏡診療部）

副司会 下田 良（佐賀大学光学医療診療部）

ESD の普及にて消化管腫瘍の内視鏡治療は大きな進歩を遂げ、リンパ節転移リスクが低い病変では適応拡大が検討されている。しかし、ESD 後非治癒切除例においては外科手術や化学放射線療法（CRT）の追加が必要である。食道癌では、放射線療法や CRT 後の遺残・再発病変に対して ESD や光線力学療法が施行されている。一方、GIST などの消化管上皮病変では、LECS をはじめとする外科手術と内視鏡治療の合同手術も行われている。本セッションでは、「消化管腫瘍に対する内視鏡治療を併用した集学的治療」の演題を広く募集する。新規性があるもの、独創的なものも歓迎する。